

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593446

研究課題名(和文) '地域の文化' に即した生活習慣病予防のポピュレーションアプローチの展開方法

研究課題名(英文) Cultural sensitive population approach to life-style related diseases

研究代表者

丸谷 美紀 (Marutani, Miki)

鹿児島大学・医歯学域医学系・教授

研究者番号：50442075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：保健師が地域の文化に即して生活習慣病予防のポピュレーションアプローチを展開する方法を、3市における2～3年間の活動を質的に調査した。A市では住民の温順な気質や伝統的活動への誇りに配慮し、活動成果としての郷土意識等を共有した結果、新たな活動への住民の受容力が向上した。B市では、住民の町再建の思いに重ねて健康意識の地域差解消を図り、住民の言語感覚等に即して啓発したところ、地域や年代の格差が解消した。C市では、地域の開放性に即すのみでなく、市のシンボル・故郷への思い・言語感覚等を考慮しところ障害者にも拡大した。即ち、住民も保健師も、共に多様性を学び認め合い、健康の概念が拡大されるよう展開されていた。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the way of cultural sensitive population approach for preventing lifestyle related diseases in three cities by Japanese PHNs. In city A, PHNs considered docile nature and pride in long-established activities of residents and shared regionalism as the effects of activities. In city B, PHNs respected people's hope to rebuild healthy hometown and tried to reduce gaps of health awareness between small areas. They also enlighten people with being sensitive to people's words. By virtue of that, health value gaps between various generation and community were dwindled. In city C, PHNs considered not only openness of community but also people's hope for their city's symbol, making hometown and sense of words. Then their activities were expanded to disordered people. In conclusion, it could be said as the process; both PHNs and community residents learn diversity in the community, became to respect diversity and expanded refined the concepts of health.

研究分野：地域看護

キーワード：生活習慣病 文化看護 ポピュレーションアプローチ 保健師

1. 研究開始当初の背景

生活習慣病予防は、国民の健康維持増進と医療費適正化の面から、わが国の喫緊の課題となっている。その対策として、リスクの高い個人に対するハイリスクアプローチと、集団全体に働きかけるポピュレーションアプローチが提唱されている。特にポピュレーションアプローチは、ハイリスクアプローチに増幅効果をもたらすといわれ、その推進に向けて保健師は重要な役割を担っている。

生活習慣は地域の慣習や価値・規範等の「地域の文化」に影響を受けているため、生活習慣病予防には、「地域の文化」を考慮することが求められる。

行動規範は「地域の文化」の構成要素の一つであり、ポピュレーションアプローチは、「地域の文化」に働きかけることになる。生活習慣病予防のポピュレーションアプローチは、都市や農村等多様な地域で実践されている。その実践報告の事業展開からは、保健師が「地域の文化」を多様な側面で捉え、健康課題の要因として判断したり、問題解決に活用していることが読み取れる。しかし、ポピュレーションアプローチに関する国内外の先行研究は、セルフモニタリングや政策的な取り組みに関するものが主で、保健師がポピュレーションアプローチの事業展開で、どのような「地域の文化」を健康課題の要因として判断し、改善に向けてどのように「地域の文化」を活用しているか、またハイリスクアプローチとどのように連動させているかを明らかにした研究はみられない。我が国の保健師が経験的に行ってきた「地域の文化」に即したポピュレーションアプローチの展開方法を明らかにすることで、多くの自治体で効果的なポピュレーションアプローチを実施することができると考える。

2. 研究の目的

都市部や農村部等多様な地域で、保健師が生活習慣病予防のポピュレーションアプローチにおいて、どのような「地域の文化」を、どのように活用し、評価の視点にとりいれているか、ハイリスクアプローチとの連動を含めて調査し、「地域の文化」に即した生活習慣病予防のポピュレーションアプローチの展開方法を明らかにする。

「地域の文化」とは、「一定の生活圏域の住民に共通する生活習慣と、その基盤となる価値観・規範」と定義する。

3. 研究の方法

生活習慣病予防のポピュレーションアプローチを継続している都市近郊3市で、事業展開(Plan-Do-See)に沿って、エスノグラフィを参考に2~3年間継続調査した。エスノグラフィは統計学的データでは得られない価値観、ライフスタイル、慣習などの体験を得るのに有効な方法で、インタビュー・参加観察・ウィンドシールド調査・イベント分析・フォーカスグループを用いる。

1) 平成24年度

(1)研究参加者:生活習慣病予防のポピュレーションアプローチを3年以上継続して実施している自治体から、都市部と農村部各3つの自治体を選定した。選定された自治体に所属する保健師、及び、事業参加者・事業協力者を研究参加者とする。

(2)調査方法及び内容

研究者は平成24~26年度まで同一の自治体を継続して担当する。

年度当初:平成24年度の事業計画(plan)について面接調査:事業計画時に、どのような「地域の文化」が生活習慣病予防の要因に関連しているようだと判断し、計画にどのように反映したか。

実施(Do)時の参加観察:当該事業に参加し、保健師・事業参加者・協力者の言動を観察し、保健師の援助行為や事業参加

者・協力者の反応にどのような‘地域の文化’が見られるか把握する。

年度末：平成 24 年度の事業評価（See）について面接調査：

・保健師への半構成面接により次を聞き取る：事業の評価の視点に、どのような‘地域の文化’の変化を取り入れているか。

・業参加者及び協力者へのフォーカスグループインタビューにより次を聞き取る。：事業参加後の自己の変化、及び家族や知人への波及効果。

(3)分析方法：面接内容、参加観察とフィールド観察の記録から、plan-do-see の枠組みに沿って、質的帰納的に分析する。

(4)研究の妥当性の確認：平成 25 年 3 月 先行研究からスーパーバイズを受け、文化看護及び生活習慣病予防に関するポピュレーションアプローチの研究に精通している Anderko 博士より研究の助言を受けた。

2) 平成 25 年度～26 年度

(1)臨地調査：24 年度と同様の調査を前年度からの変化を含めて調査した。

(2)世界の動向との比較：WHO 本部・国際赤十字・ICN の NCD 対策等との比較を行った。

3) 平成 27 年度

各自治体の調査結果を地域特性ごとに集約・比較し特徴を明らかにする。全調査結果を統合し‘地域の文化’に即したポピュレーションアプローチの展開方法を考察した。

4. 研究成果

A 市では住民の温順な気質や伝統的活動への誇りに配慮して総合的な活動への移行を試みたが、伝統への固着に直面し移行が困難になった。2 年目に、変容への戸惑いに共感しつつ活動成果としての郷土意識の高まりや多様性への受容力の向上等を住民間で共有した結果、新たな活動への住民の

受容力が向上した。B 市では、住民の町再建の思いに重ねて健康意識の地域差解消を図ろうと試みたが、予想以上に地域格差が大きく停滞した。住民から言語感覚や伝達様式の決まり等を学び、それに沿って啓発したところ、地域や年代毎の健康意識の格差が解消した。C 市では、地域の開放性に合わせたり、市のシンボルへの思いを重ねて活動普及を図りながら、故郷への思いや言語感覚等を学んだ。それらを考慮して活動を進めたところ、障害者にも拡大した。

即ち、地域の文化に即した生活習慣病予防のポピュレーションアプローチとは、住民も保健師も、共に多様性を学び認め合う過程であり、結果として健康の概念が拡大されていた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕(計 6 件)

1)地域の文化に即した生活習慣病予防のポピュレーションアプローチの展開方法 第 1 報 都市近郊 1 市における初年の調査より（丸谷美紀 細谷紀子 雨宮有子 佐藤紀子 大澤真奈美 嶋澤順子 田村須賀子 宮崎美砂子）第 2 回日本公衆衛生看護学会、2014 年 1 月 12 日、国際医療福祉大学（神奈川県小田原市）

2.)地域の文化に即した生活習慣病予防のポピュレーションアプローチの展開方法 第 2 報 農村部 1 市における初年の調査より（雨宮有子 丸谷美紀 細谷紀子 佐藤紀子 大澤真奈美 田村須賀子 嶋澤順子 宮崎美砂子）第 2 回日本公衆衛生看護学会、2014 年 1 月 13 日、国際医療福祉大学（神奈川県小田原市）

3.)生活習慣病予防のポピュレーションアプローチに見られる文化的看護～ベッドタウンにおける初年度調査より(丸谷美紀 島澤順子 細谷紀子 雨宮有子 佐藤紀子 大澤真奈美 田村須賀子 宮崎美砂子)日本地域看護学会第17回学術集会、2014年8月2日、岡山コンベンションセンター(岡山県岡山市)

4)生活習慣病予防のポピュレーションアプローチに見られる文化を考慮した保健師の援助(1)(丸谷美紀 細谷紀子 雨宮有子 大澤真奈美 嶋澤順子 稲留直子 田村須賀子)第73回日本公衆衛生学会総会、2014年11月14日、栃木県総合文化ホール(栃木県宇都宮市)

5)生活習慣病予防のポピュレーションアプローチにおける文化を考慮した保健師の援助(2)(雨宮有子 丸谷美紀 細谷紀子 大澤真奈美 嶋澤順子 田村須賀子)第73回日本公衆衛生学会総会、2014年11月14日、栃木県総合文化ホール(栃木県宇都宮市)

6)生活習慣病予防のポピュレーションアプローチに見られる文化を考慮した保健師の援助(3)(大澤真奈美 丸谷美紀 細谷紀子 雨宮有子 嶋澤順子 田村須賀子)第73回日本公衆衛生学会総会、栃木県総合文化ホール(栃木県宇都宮市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

丸谷美紀(MARUTANI Miki)
鹿児島大学医歯学域医学系・教授
研究者番号: 50442075

(2)研究分担者

佐藤紀子(SATO Noriko)
千葉県立保健医療大学健康科学部・教授
研究者番号: 80283555

大澤真奈美(OSAWA Manami)
群馬県立県民健康科学大学・准教授
研究者番号: 50331335

嶋澤順子(SHIMASAWA Junko)
慈恵会医科大学看護学部・教授
研究者番号: 00331348

雨宮有子(AMAMIYA Yuko)
千葉県立保健医療大学健康科学部・准教授
研究者番号: 302796245

細谷紀子(HOSOYA Noriko)
千葉県立保健医療大学健康科学部・准教授
研究者番号: 60334182